

事務事業コード	776112	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		担当課	国分図書館
施策名	5	学習機会の充実		グループ	管理図書グループ
基本事業名	1	学習環境づくり		電話番号	45-5111
				内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 43 年度~)
	項	6	社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	8	図書館費	根拠法令・条例等	図書館法 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例 同条例施行規則
コード	776112				
関連計画	霧島市教育振興基本計画				

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成24年度実績				
図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に移動図書館車での図書資料の巡回サービスを実施し、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりを支援する。 巡回箇所82箇所 ・貸出冊数 10冊以内 ・貸出期間 1ヶ月以内(次回巡回日まで)			国分図書館の移動図書館車を更新した。				
			平成25年度計画				
				事務事業の概要と同様			
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)	
ア	巡回箇所	箇所	79	82	82	82	
イ							
ウ							
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)	
ア	市民	人口	127,365	127,475	128,362	128,861	
イ							
ウ							
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)	
ア	欲しい情報を市民が得られる	貸出者数(移動図書館分のみ)	人	9,347	10,007	10,000	10,000
イ		貸出冊数(移動図書館分のみ)	冊	43,278	46,926	47,000	47,000
ウ							
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)	
ア	地区に合った学習を行う環境が整う	住んでいる地域の学習を行う環境が整っていると考えている市民の割合	%	27.6	29.2	***	***
イ							

(2) 事業費 単位:千円

	24年度(決算)	25年度(予算)	
予算額	当初予算額	3,700	3,772
	補正予算額	166	0
	予算合計	3,866	3,772
決算額	国庫補助金	0	
	県支出金	0	
	地方債	0	
	その他	0	
	一般財源	3,853	
支出合計	3,853		

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか?	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか?
昭和33年に市民の学習環境を充実させるため国分市立図書館が設置され、その後、昭和43年に移動図書館車を購入し、巡回が始まった。	インターネットなどの新たなメディアを通じ情報の取得が可能となっており、個人一人ひとりの情報ニーズが多様化している。活字離れが進んでいると言われるが、根強い読書、書籍ファンも多い。合併を機に巡回箇所が増えた。
③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているのか?	④ この事務事業に対する議会から出された意見
小学校では月1回の巡回を児童たちが楽しみに待っている。	特になし

事務事業コード	776112	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

単位:千円	平成24年度(決算)			平成25年度(当初予算)			平成26年度(見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金	3,112		3,112	3,109		3,109	3,109		3,109
8 報償費									
9 旅費	103		103						
10 交際費									
11 需用費	462		462	528		528	530		530
消耗品費									
燃料費	313		313	339		339	340		340
食料費									
印刷製本費									
光熱水費									
修繕料	149		149	189		189	190		190
12 役員費	133		133	94		94	92		92
通信運搬費									
広告料									
手数料	10		10						
保険料	123		123	94		94	92		92
13 委託料									
14 使用料及び賃借料									
15 工事請負費									
16 原材料費									
17 公有財産購入費									
18 備品購入費									
19 負担金補助・交付金									
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利息・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費	43		43	41		41	30		30
28 繰出金									
計	3,853		3,853	3,772		3,772	3,761		3,761

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他								
一般財源	3,853		3,853	3,772		3,772	3,761		3,761
計	3,853		3,853	3,772		3,772	3,761		3,761

補助率	国								
	県								
補助基本額									

平成24年度	当初予算	3,700千円		
	補正予算	166千円		
	第1回		第5回	
	第2回		第6回	
	第3回		第7回	
	第4回		流用(6月)	166
予算合計	3,866千円			

平成24年度 財源内訳の「その他」の内訳	
参加費等の事業実施のための収入説明	

事務事業コード	776112	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A 目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に移動図書館車での図書資料の巡回サービスを実施することは、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりに結びついている。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関であり、移動図書館はその一部である。市民の生涯学習の支援として市が実施すべき事業である。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	市民が欲しい情報を得られるように学習環境を整備する必要があることから、対象・意図は適切である。
B 有効性 評価	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	現在、市内82箇所を巡回している。工夫して巡回箇所を増やせば、成果の向上余地もある。しかし、現在の車両、人員体制では精一杯である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	市民が、図書資料等を利用して情報等を得られなくなり、教養と文化の向上に支障が出てくる恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C 効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	事業費のほとんどは燃料費、車両修繕費用、車検費用、運転手の人件費と移動図書館車の維持・運行のための経費である。現時点においてはこれ以上の削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	ただ単に本を積み込んで、巡回するだけではなく、巡回先の利用者の読書傾向等を加味した図書資料の積載が必要である。現行、事業に要する人件費は、少人数で移動図書館用図書の選書、積み込み、運行等を行っており、削減は難しい。
D 公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っていないか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	移動図書館も全ての市民が利用可能である。また、図書館法第17条の規定により入館料その他図書資料の利用については無償となっている。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	国分図書館の移動図書館車の更新を行い、また単人図書館の移動図書館車の巡回箇所を3箇所(溝辺2箇所、単人1箇所)増やした。巡回先の利用者の読書傾向等を加味した図書資料の積載などに心がけ、利用者ニーズに配慮した運営に努めた。また、少しずつではあるが利用者・貸出冊数とも増加している。	

3 今後の方向性<PLAN>	
(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	
(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか	
① 平成25年度の取組み概要及び期待される効果 ・それぞれの巡回先の利用者の傾向やニーズを踏まえながら、図書館から遠く離れた方々にも同じような読書環境が得られるよう努める。 ・学校においては、学校司書等と連携しながら利用促進に努め、本好きな子どもたちが増えるよう環境整備を進める。	② 平成26年度に取り組むべき具体的な内容 巡回箇所の検討等を行い、移動図書館の利点を生かしながら、利用者や貸出冊数が増えるよう運行体制の充実を進める。

事務事業コード	776114	事務事業名	郷土資料収集事業	担当部	教育部
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		担当課	国分図書館
施策名	5	学習機会の充実		グループ	管理図書グループ
基本事業名	1	学習環境づくり		電話番号	45-5111
				内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~)
	項	6	社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	8	図書館費	根拠法令・条例等	図書館法 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則
コード	776114				
関連計画	霧島市教育振興基本計画				

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成24年度実績			
霧島市に関連する郷土資料の収集、整理、保管を行う。 また、鹿児島県が輩出した人物等に関する書籍資料や地誌等を収集、整理し、閲覧、貸出等に供する。			事務事業の概要と同様			
			平成25年度計画			
		前年度と同様				
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	収集した郷土資料冊数	冊数	281	296	300	300
イ						
ウ						
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	市民	人口	127,365	127,475	128,362	128,861
イ						
ウ						
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	郷土資料に触れる機会を増やし、ふるさとを誇りに思う気持ちや愛する心を育てる。	冊	1,075	1,374	1,400	1,400
イ						
ウ						
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	地区に合った学習を行う環境が整う。	%	27.6	29.2	***	***
イ						

(2) 事業費 単位:千円

	24年度 (決算)	25年度 (予算)
予算額	当初予算額	153
	補正予算	0
	予算合計	153
決算額	国庫補助金	0
	県支出金	0
	地方債	0
	その他	0
	一般財源	149
	支出合計	149

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか?	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか?
昭和33年の国分図書館設置と同時に郷土の歴史的、文化的資料を後世に引き継ぐために事務事業が始まった。	平成17年の合併による霧島市の誕生に伴い、旧1市6町を対象に、歴史的、文化的資料の収集が始まった。
③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているのか?	④ この事務事業に対する議会から出された意見
特になし	特になし

事務事業コード	776114	事務事業名	郷土資料収集事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

単位:千円	平成24年度(決算)			平成25年度(当初予算)			平成26年度(見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金									
8 報償費									
9 旅費									
10 交際費									
11 需用費	149		149	138		138	138		138
消耗品費	143		143	128		128	128		128
燃料費									
食料費									
印刷製本費	6		6	10		10	10		10
光熱水費									
修繕料									
12 役員費									
通信運搬費									
広告料									
手数料									
保険料									
13 委託料									
14 使用料及び賃借料									
15 工事請負費									
16 原材料費									
17 公有財産購入費									
18 備品購入費									
19 負担金補助・交付金									
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利息・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費									
28 繰出金									
計	149		149	138		138	138		138

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他								
一般財源	149		149	138		138	138		138
計	149		149	138		138	138		138

補助率	国		
	県		
補助基本額			

平成24年度	当初予算	153千円		
	補正予算			
	第1回		第5回	
	第2回		第6回	
	第3回		第7回	
	第4回		第8回	
予算合計	153千円			

平成24年度 財源内訳の「その他」の内訳
参加費等の事業実施のための収入説明

事務事業コード	776114	事務事業名	郷土資料収集事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A 目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	郷土に関する資料を収集、整理、保存し、市民がこれを利用することで郷土への理解と愛着を深めることができ、地域についての学習を行う環境整備に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	郷土資料の利用は市民はもとより図書館利用者全員を対象としており、広く誰でもが利用できる。図書館法にも郷土資料を収集し、利用に供することは図書館奉仕の一部であると記してある。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	郷土資料の利用者は市民を中心に学習意欲のある不特定の方々である。また、館内の利用は誰でも自由にでき、特定、限定できない。
B 有効性 評価	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	継続した資料収集や資料配置、資料展示方法などを改善することにより、成果の向上が期待できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	統計的な地域情報は継続して収集、保存する必要がある。郷土の歴史的、文化的資料を次世代に引き継ぐことができなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C 効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	事業費は、消耗品(資料代、資料保存用品等)、資料製本代であり、削減の余地はない状態である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	郷土資料は地理、歴史等を含む広範な分野にまたがっており、資料収集等に関しては専門的な知識が必要とされる場面もある。しかし、専門的な知識を有する者はおらず、兼務で実施しているのが現状である。
D 公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っているか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	収集、整理、保存された郷土資料は、全ての市民が利用可能であり、図書館法により図書館資料の利用に関しては無償となっている。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	郷土資料は禁帯出(原則貸し出しができない)の図書資料が多いため、禁帯出本を市内の図書館、図書室間で相互に貸借し、館(室)内で閲覧ができるように継続して行った。また、郷土資料コーナー等の表示を改善し、利用促進に努めた。	

3 今後の方向性<PLAN>	
(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	

(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか	
① 平成25年度の取組み概要及び期待される効果	② 平成26年度に取り組むべき具体的な内容
郷土に関する出版情報を的確に把握し、必要なものを確実に収集する。 また、収集した資料の展示方法の改善などにより、利用しやすい環境を作っていく。 大隅国建国1300年に関連した資料の展示コーナーを新たに設置する。	継続した資料収集の実施及び収集した資料が配架されている場所が、必要としている利用者に容易にわかるような表示等の工夫をしたりして、市民に広く利用してもらえるように努める。また、郷土資料に関する情報収集を進める。

事務事業コード	776110	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		担当課	国分図書館
施策名	5	学習機会の充実		グループ	管理図書グループ
基本事業名	1	学習環境づくり		電話番号	45-5111
				内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~)
	項	6	社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	8	図書館費	根拠法令・条例等	図書館法 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則
コード	776111				
関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画				

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成24年度実績			
・市内に国分・隼人図書館、溝辺・横川・牧園・霧島・福山図書室の2図書館、5図書室が設置されている。公共図書館としての役割を果たすために多様な資料の整備に努め、幅広い年齢層の方々に応じた資料の提供を行う。 また、未所蔵資料に対する購入希望状況、予約の状況等や図書の出版状況(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)等にも目を向けながら購入を進めたり、相互貸借での対応で利用者の要求にこたえ、図書資料の収集、整理、提供等を行う。さらに、図書館施設の維持管理を行う。 ・貸出冊数…5冊以内 ・貸出期間…15日以内 ・貸出対象者…市内に住んでる方、市内の学校に通学している方、市内の職場に通勤している方			事務事業の概要と同様			
			平成25年度計画			
		前年度と同様				
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)
ア	入館者数	人	281,403	264,409	270,000	275,000
イ	蔵書冊数	冊	392,996	401,668	407,000	412,000
ウ						
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)
ア	市民	人口	127,365	127,475	128,362	128,861
イ						
ウ						
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)
ア	欲しい情報を市民が得られる	人	112,714	110,692	112,000	113,000
イ		冊	387,737	377,815	380,000	385,000
ウ						
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(見込)
ア	地区に合った学習を行う環境が整う	%	27.6	29.2	***	***
イ						

(2) 事業費

単位:千円

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

予算額	24年度(決算)	25年度(予算)	① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか? 昭和33年に市民の学習環境を充実させるため、国分市立図書館が設置された。	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか? インターネットなどの新たなメディアを通じ情報の取得が可能となっており、個人一人ひとりの情報ニーズが多様化している。活字離れが進んでいると言われるが、根強い読書、書籍ファンも多い。	
	当初予算額	48,736			61,080
	補正予算額	632			
	予算合計	49,368	61,080		
決算額	国庫補助金	0	③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているのか? 利用者から、図書館(室)の蔵書を増やしてほしい、開館時間を早めて欲しい、開館時間を長くしてほしい、学習室の席を増やしてほしい等の蔵書、運営方法、施設改善等の要望がある。	④ この事務事業に対する議会から出された意見 特になし。	
	県支出金	0			
	地方債	0			
	その他	71			
	一般財源	48,943			
支出合計	49,014				

事務事業コード	776110	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

単位:千円	平成24年度(決算)			平成25年度(当初予算)			平成26年度(見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金	9,560		9,560	18,751		18,751	18,751		18,751
8 報償費									
9 旅費	29		29	39		39	20		20
10 交際費									
11 需用費	17,421		17,421	17,410		17,410	17,492		17,492
消耗品費	12,919		12,919	12,968		12,968	12,950		12,950
燃料費									
食料費									
印刷製本費	23		23	36		36	36		36
光熱水費	3,832		3,832	4,306		4,306	4,306		4,306
修繕料	647		647	100		100	200		200
12 役務費	848		848	783		783	785		785
通信運搬費	798		798	735		735	735		735
広告料									
手数料	6		6	6		6	6		6
保険料	44		44	42		42	44		44
13 委託料	19,283		19,283	8,220		8,220	8,220		8,220
14 使用料及び賃借料	753		753	730		730	730		730
15 工事請負費				14,000		14,000			
16 原材料費	20		20	30		30	30		30
17 公有財産購入費									
18 備品購入費	1,100		1,100	1,100		1,100	1,100		1,100
19 負担金補助・交付金				17		17	5		5
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利息・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費									
28 繰出金									
計	49,014		49,014	61,080		61,080	47,133		47,133

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他	71		71	67		67	67	
一般財源	48,943		48,943	61,013		61,013	47,066		47,066
計	49,014		49,014	61,080		61,080	47,133		47,133

補助率	国								
	県								
補助基本額									

平成24年度	当初予算	48,736千円		
	補正予算	632千円		
	第1回	第5回(9月)	800	
	第2回	第6回		
	第3回	第7回		
	第4回	流用(6月)	▲168	
予算合計	49,368千円			

平成24年度 財源内訳の「その他」の内訳	
【内訳】 電話使用料(単人図書館) 1,760円 雑入 図書館資料コピー代(国分・単人図書館) 68,580円	
参加費等の事業実施のための収入説明	

事務事業コード	776110	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A 目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	多種多様な図書資料等を図書館(室)が収集、整理、保存等を行い、市民に利用してもらうことは、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境の整備に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関である。地域の情報の拠点、読書施設、図書資料等各種情報の保存機関、生涯学習の支援施設等として市が実施すべき事業である。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	全ての市民が図書館サービスの対象であり、市民と図書資料を対象としている。利用者へ充実した情報提供や利便性の向上を図ることは妥当である。
B 有効性 評価	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	様々な資料構成の中から、図書の配置方法についても工夫し配架を行う。また、リクエスト等を受けることでどのような要求があるのか把握でき、それに伴い資料の購入、相互貸借を行う。また、広報誌・図書館だより等を活用して図書の紹介や行事案内を通じて利用拡大を図る。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	市民が、図書資料等を利用して情報等を得られなくなり、教養と文化の向上に支障が出てくる恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C 効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	市民の多種多様な要望に応え、現在の運営を維持していくためには、削減は困難である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	各事務内容を検討し、無駄と思われる部分を省き、効率のよい部分を改善することで多少の余地がでてくる可能性もある。が、利用者にとっては便利なネット検索、ネット予約等のIT化も人の関わりが必要であり、経費、業務時間等の削減は困難である。
D 公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っているか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は全ての市民が利用可能であるので公平である。また、図書館法第17条の規定により入館料その他図書資料の利用については無償となっている。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 入館者数、貸出冊数、貸出者数は前年度と比較し、若干減少している。特に7・11月及び20～30歳代の利用者が減少している。しかし、ホームページの検索件数は増大している。市民の関心、意欲を喚起するような図書資料の購入、館内の雰囲気づくりなど、さらに努力していく必要がある。

3 今後の方向性<PLAN>	
(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	
(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか	
① 平成25年度の取組み概要及び期待される効果	② 平成26年度に取り組むべき具体的な内容
テーマに応じた館内展示の工夫や、図書館・図書室の案内チラシを作成し、図書館利用を促す。また、利用者のリクエストにより多く応えられるように横断検索システムを活用し相互貸借の充実を図る。 高校生以上を対象とした図書館ボランティアの養成講座を開催し、図書館をより身近に感じてもらえるような活動を実施する。 隼人図書館の駐車場の整備及び空調設備改修を行い、学習環境の充実を図る。	図書資料の選定にあたっては、図書館にない資料(本等)の購入希望状況、予約の状況等の数値的なものを活用するとともに、図書の出版状況(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)等を参考にした図書資料等の確保を図る。 広報誌、図書館だより、ホームページ等により各種イベント情報等を発信し、利用促進に努める。 市民が利用しやすい図書館、図書室づくりを進める。

事務事業コード	776111	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		グループ	管理図書グループ
施策名	5	学習機会の充実		電話番号	45-5111
基本事業名	2	学習活動の推進		内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~)
	項	6	社会教育費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)
	目	8	図書館費		
	コード	776111		根拠法令・条例等	図書館法第3条、子どもの読書活動の推進に関する法律 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則
関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画				

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成24年度実績			
多様な読書行事等への参加を通して読書への興味、様々な学習への興味を喚起することにより、学習活動の推進を図る。 【開催行事等】 ブックスタート、おはなし会、おはなしの部屋、緑陰読書、子ども読書の日、植物採集教室、昆虫採集教室、からくり絵本教室、植物名付け会、司書研修会、学校司書と読書ボランティアとの交流会、おはなし王国、図書館だより等の作成、配布等			事務事業の概要と同様			
			平成25年度計画			
			前年度と同様			
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	行事の開催回数	回	262	227	230	240
イ						
ウ						
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	市民	人口	127,365	127,475	128,362	128,861
イ						
ウ						
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	できるだけ多くの市民に読書に興味を持ってもらう	人	7,242	7,074	7,100	7,200
イ						
ウ						
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込)	26年度 (見込)
ア	自身のテーマに沿った学習機会が得られる	%	15.1	16.3	***	***
イ	"	%	22.8	21.8	***	***

(2)事業費

単位:千円

(3)事務事業の環境変化・住民意見等

予算額	当初予算額	24年度 (決算)	685	25年度 (予算)	681	① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか？ 多くの市民に読書に興味をもってもらい、学習活動を推進するため、昭和33年に図書館設置とともに開始された。	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか？ 紙媒体の情報よりインターネットなどの新たなメディアを通じた情報の取得が重要視されてきているが、やはり幼少時期から絵本や児童書に接することが見直されている。また、親子読書活動など本を通して心のふれあいが、現代社会の中で重要視されてきている。
	補正予算額		0				
	予算合計		685		681		
決算額	国庫補助金		0			③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているか？ ブックスタートの取組は、保護者から好評を得ている。	④ この事務事業に対する議会から出された意見 平成19年第1回定例会「ブックスタートを全市的に取り組んでほしい。」 平成22年第2回定例会「セカンドブック事業の実施を検討してほしい。」
	県支出金		0				
	地方債		0				
	その他		0				
	一般財源		682				
支出合計		682					

事務事業 コード	776111	事務 事業名	図書館読書推進事業			担当部	教育部
						担当課	国分図書館

単位:千円	平成24年度 (決算)			平成25年度 (当初予算)			平成26年度 (見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金									
8 報償費	49		49	52		52	52		52
9 旅費				2		2	2		2
10 交際費									
11 需用費	633		633	627		627	627		627
消耗品費	633		633	627		627	627		627
燃料費									
食料費									
印刷製本費									
光熱水費									
修繕料									
12 役務費									
通信運搬費									
広告料									
手数料									
保険料									
13 委託料									
14 使用料及び賃借料									
15 工事請負費									
16 原材料費									
17 公有財産購入費									
18 備品購入費									
19 負担金補助・交付金									
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利息・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費									
28 繰出金									
計	682		682	681		681	681		681

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他								
一般財源	682		682	681		681	681		681
計	682		682	681		681	681		681

補助率	国								
	県								
補助基本額									

平成 24 年度	当初予算	685千円		
	補正予算			
	第1回		第5回	
	第2回		第6回	
	第3回		第7回	
	第4回		第8回	
予算合計	685千円			

平成24年度 財源内訳の「その他」の内訳	
参加費等の事業実施のための収入説明	

事務事業コード	776111	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A 目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	多様な読書行事等への参加を通して読書への興味を興し、併せて様々な学習への興味を喚起することは「自身のテーマに沿った学習機会が得られる」ことに結びついている。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館法及び子どもの読書活動の推進に関する法律により、読書推進を自治体が行うことが求められている。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	市民を対象として、できるだけ多くの人に読書活動に興味を持ってもらうことを意図しており、適切である。
B 有効性 評価	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	図書館(室)とボランティアグループ等が連携をとり、読み聞かせ、おはなし会等の活動の場を増やしたり、館内見学等の受け入れにより図書館が身近な施設と感じてもらい、おはなし会などに足を運ぶきっかけを作ることで成果の向上が期待できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	読書推進活動を廃止、休止した場合、読書離れが進み、教育と文化の向上に支障が出てくる恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C 効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	事業費は、各行事等の報償費、旅費、消耗品費であり、これ以上の削減は難しい。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	必要最低限の企画、運営業務にしか職員は携わっておらず、ほとんどがボランティアの方々の協力を得て事業を実施しているものであり、業務時間の削減余地はない状態である。
D 公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っていないか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	読書推進事業の受益者は図書館の利用者、おはなし会等の参加者であるが、すべての市民を対象として呼び掛け、実施しているため、公平である。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	市内7カ所で開催している読書まつりの内容充実に努め、子どもから大人まで誰もが気軽に集い楽しめるように努めた。また、ブックスタートで手渡す絵本を本年度から変更したことにより、さらに乳幼児が興味や関心をしめすようになってきており、より一層、本に触れることの大切さを認識してもらう機会となっている。	

3 今後の方向性<PLAN>	
(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	
(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか	
① 平成25年度の取組み概要及び期待される効果 小学生の社会科見学等の図書館利用、中学生の職場体験学習などを通じて、読書推進や図書館の活用等について啓発していく。気軽に身近なそれぞれの図書館、図書室を利用してもらうため、市内7箇所で開催している読書まつりの内容の充実を図る。	② 平成26年度に取り組むべき具体的な内容 読み聞かせボランティアグループ等との連携を図り、読書推進の取り組みの充実や活動支援に努める。また、ブックスタートの内容について、各図書館・図書室、ボランティアが一体となって読み聞かせを行うほか、各団体が実施しているおはなし会の情報提供などを充実していく。

事務事業コード	776111	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

4. 2次評価

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準 (1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) <input type="checkbox"/> 記述不足で分かりにくい <input type="checkbox"/> 一部記述不足のところがある <input checked="" type="checkbox"/> 十分に記述されている	② 評価の客観性水準 (2次評価を行った後に総合的に判断して選択) <input type="checkbox"/> 客観性を欠いており評価が偏っている <small>(事務事業の問題点、課題が認識されていない)</small> <input type="checkbox"/> 一部に客観性を欠いたところがある <input checked="" type="checkbox"/> 客観的な評価となっている
--	--

(2) 2次評価		1次評価	2次評価
A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	② 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	③ 対象・意図の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある
B 有効性	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <small>(十分に成果が出ている)</small> <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <small>(十分に成果が出ている)</small> <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない
	⑥ 類似事業との 統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の 削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の 適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
総 括	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある

(3) 2次評価結果の理由 ※上記総括で「見直す必要がある」と評価した項目について理由を記載する。

A 目的妥当性	
B 有効性	一般の利用者や障がい者の方々にも利用しやすい環境づくりに努めることにより、有効性を向上させることができる。
C 効率性	
D 公平性	

(4) 評価結果にもとづく今後の方向性	1次評価	2次評価
[目的妥当性①②、有効性⑥の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 廃止
[目的妥当性①②、有効性⑥の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 休止
[目的妥当性①③の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 目的再設定
[有効性⑤の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 事業統合・連携	<input type="checkbox"/> 事業統合・連携
[有効性④の結果] ⇒	<input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)	<input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)
[効率性⑦⑧の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)	<input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)
[公平性⑨の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 公平性改善	<input type="checkbox"/> 公平性改善
	<input type="checkbox"/> 現状維持・継続	<input type="checkbox"/> 現状維持・継続

(5) 具体的な改善計画 * (4)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか

① 1次評価結果にもとづく平成26年度に取り組むべき具体的な内容 読み聞かせボランティアグループ等との連携を図り、読書推進の取り組みの充実や活動支援に努める。また、ブックスタートの内容について、各図書館・図書室、ボランティアが一体となって読み聞かせを行うほか、各団体が実施しているおはなし会の情報提供などを充実していく。	② 2次評価を踏まえ、①に追記すべき取組み内容 特になし
--	--